

管中混合固化処理(Pipe Mixing)工法

管中混合固化処理工法は圧送中の粘性土に、圧送管内で直接固化材スラリーを添加し、
 圧送エネルギーを利用して粘性土と固化材を混練するものです。
 改良された処理土の強度は $q_u = 100 \sim 200 \text{ kN/m}^2$ 程度を目標とします。

特長

粘土プラグの中に固化材スラリーを直接添加するので、混練効率が高くなります。

浚渫土の有効利用が図れます。

既存の空気圧送船を利用することができます。

浚渫土の大量処理が可能で、また埋立後の地盤改良も不要です。

施工手順

粘性土揚土

空気圧送

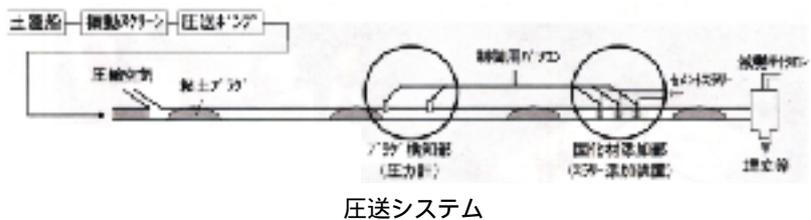
粘土プラグ検知

固化材添加

管中混練

打設

施工機械



打設状況

施工実績

工事名	工期	施工場所	発注者	目的	処理能力 / 処理土量
軟質土固化処理工法施工試験	98.8 ~ 98.10	愛知県	運輸省	処理土特性の把握	300m ³ /h / 5,000m ³
中国電力小野田発電所 揚炭棧橋前面泊地浚渫工事	99.7 ~	山口県	中国電力	固化処理埋立	200m ³ /h / 10,000m ³
名古屋港第三ポートアイランド 汚濁防止対策工事(その3)	00.3 ~ 00.7	愛知県	運輸省	中仕切堤の築造	1,000m ³ /h / 87,580m ³